専大スポーツ　No. 318

大会結果、予定は体育会ホームページ（専大ホームページ「スポーツ」からアクセス）でご確認ください
専大スポーツ編集部 web（http://sensupo.web.fc2.com/）でも大会結果を配信しています

水泳・関東学生選手権

200メートル・400メートル個人メドレー

高久が2冠

▶ 2種目を制した高久（撮影・小川）

関東学生選手権水泳競技大会が8月4日から6日まで千葉国際総合水泳場で行われ、高久彩（ネット情報3・淑徳巣鴨高）が女子200メートル個人メドレー、400メートル個人メドレーの両種目で優勝した（200メートルは昨年に続き連覇、400メートルは2年ぶり2回目）。

高久は「大会のレベルが昨年より上がっていた。苦戦する人も多かったが、その高いレベルの中で自分の水泳に対する意識も高められたと思う」と語った。

2種目で優勝したことに対して、「本当にうれしかった。両種目ともヒヤヒヤするレース展開だったが、ともに自己ベストを出すことができて自信になった。400メートルは昨年3位のリベンジを果たせてよかった」と話した。

9月の日本学生選手権水泳競技大会に向け、「この調子で自己ベストを更新したい。コーチ、先輩、同期、後輩と一緒に強いチームを作りたい」と抱負を語った。

また、今大会では男子200メートル自由形で太田佳吾（文1・前橋育英高）が4位、女子400メートル自由形で岩永美里（経営4・八王子高）も4位となった。

（横谷　美遥・ネット情報3）

▲ 粘りを見せた荒井

ゴルフ・日本女子学生選手権

荒井、健闘も8位

8月22日から24日まで、埼玉県の狭山ゴルフクラブで日本女子学生ゴルフ選手権が行われ、荒井舞（経営3・沖学園高）が8位タイとなった。

荒井は初日から調子を崩し、12位タイ。この差を埋められなかったものの粘りを見せ、順位を上げた。来年プロテストを受けるため、同大会への出場はこれが最後となった。「優勝を目指していたので、今回の結果には満足していない。悔しい気持ちでいっぱいです」と語った。

男子の日本学生ゴルフ選手権（8月21～24日、同クラブ）では、小浦和也（商2・日章学園高）が9位タイに入賞した。

関東女子学生選手権

西山3位で朝日杯

日本女子学生へ

関東女子学生選手権が8月7日から9日まで、埼玉県の日高カントリー倶楽部で行われた。西山美希（経営1・厚木北高）がトップと4打差で3位となり、10月の朝日杯争奪日本女子学生選手権の出場権を獲得した。

また、関東学生選手権（8月7～10日、千葉県鷹之台カンツリー倶楽部）では小浦が4位、梶原英明（経済4・大分高）が5位タイだった。

（溝井　智大・文3）

相撲・東日本学生個人体重別選手権

75kg未満級で田中が3位入賞

▲ 立ち合いのよさが出た田中（右）

東日本学生相撲個人体重別選手権が8月26日、靖国神社相撲場で行われた。専大からは8人が出場し、75kg未満級で田中佑樹（商2・埼玉栄高）が3位に入賞した。

同級でベスト8入りした植木隆之（経営1・埼玉栄高）とともに全国学生相撲個人体重別選手権（9月16日、大阪府堺市）への出場を決めた。

田中は「自分の武器である立ち合いで思い切りのよさが出せた」と振り返り、次の大会に向けて「引かずに自分の相撲を取って優勝を狙いたい」と語った。

一方、植木は「力を落とさずに登録体重まで減量することに苦労したが、よい状態で大会に臨めた。次の大会では優勝を目指したい」と、意気込みを語った。同階級での戦いとなる2人の活躍に期待したい。

（林　裕太・法2＝写真も）

レスリング・全日本学生選手権

魚住（グレコローマン66kg級）が準優勝

池澤（同74kg級）、半田（フリー55kg級）ともに3位

▲ 準優勝した魚住（赤いユニフォーム）

8月23日から26日まで、大阪府の堺市立金岡公園体育館で全日本学生レスリング選手権が行われ、グレコローマンスタイル66kg級で魚住彰吾（経済1・育英高）が準優勝を果たした。また、同74kg級で池澤峻介（商3・花咲徳栄高）と、フリースタイル55kg級で半田守主将（経営4・網野高）がともに3位に入賞した。

順調に勝ち進んだ魚住は、準決勝で金光（東洋大）と対戦。第3ピリオドまでもつれた試合は、グラウンドレスリングで30秒間ポイントを奪われずに守り切った魚住が勝利した。決勝は第1シードの音泉（日体大）と激突。全日本選抜選手権でも優勝している強豪にロースコアの試合で善戦したが敗れた。「金光選手にはずっと勝ちたいと思って練習していた。音泉選手とはたまに練習することがあるが、練習の時より接戦に持ち込むことができ、よかった。スタンドの構えと足の力をもっとつけて、ポイントを取っていくレスリングを展開したい」と話した。

池澤の準決勝の相手は今大会を制した小森（拓大）。グラウンドでの攻撃で攻めきれず敗れた。「小森選手はグラウンドでの守りが強かった。今回は攻めきれない部分が多かった。確実にポイントを取れるようになり、次のグレコローマン選手権では勝ちたい」とリベンジを誓った。

2年ぶりの優勝を目指した半田主将は、準決勝まで順当に勝ち進む。準決勝は第1ピリオドを取るもその後はポイントを奪えず敗退した。「タックルで取りきることが課題。攻めてポイントを取って勝つレスリングをしたい」と語った。

佐藤満ヘッドコーチは「魚住は4年次生相手に接戦でよく頑張った。上位進出者は高校時から実績を残している選手ばかりだが、専大勢は大学で頑張って上位に進んでいく。本当によく頑張っていた」と選手を労った。

（葛西　千瑛・文2＝写真も）

漕艇・関東学生カヌー選手権

「K―4」1000メートルで2位

8月10日から13日まで、石川県の木場潟カヌー場で、関東学生カヌー選手権が行われた。カヤックフォア（K―4）1000メートルで三浦翔太（商3・安達高）、佐藤貴充（商2・安達高）、荒木琢磨（商1・谷地高）、村上弘記（法1・高瀬高）組が2位となった。

先頭に乗りメンバーを引っ張った三浦は「調子はよく、タイムも伸びた。後ろは先頭のピッチに合わせるので先頭がスタートから遅れると後ろも遅れてしまう。先手を取ることを心がけた」と語った。

なお、全日本学生カヌー選手権（8月28日～9月2日、同会場）では、500メートル×4リレーで三浦、佐藤、石橋成志（経営2・三潴高）、村上組が、K―4・1000メートルで三浦、佐藤、荒木、村上組がともに6位となった。

（葛西）

「専Sation」第8号発行

「Change!」をテーマにスポーツを多角的視点で

「専Sation」第8号が完成した。これは体育会情宣局編集部が、「専大スポーツ」ではスポットのあたらない部分を取り上げ体育会への関心を高めようと、年2回発行しているフリーペーパーだ。今号は「Change!」をテーマにスポーツをいつもと違う視点から見た企画となっている。

編集部員のオススメするスポーツ関連の映画や漫画を特集した「スポーツ×サブカルチャー」、国立競技場や日本武道館などの歴史を紹介した「スポーツ施設特集」、伊勢原体育寮で選手はどのような食事をしているのかに迫った「伊勢原ごはん」など内容は盛りだくさん。

OG企画は「食」の面からスポーツを支える管理栄養士として活躍中の虎石真弥さん（平10商）に話を伺った。

学内ラックで配布されているので、ぜひ一度手にとっていただきたい。

（村上　大晃・文2）

国際大会出場選手

◇バレーボール部
高橋　拓也（経済1・東亜学園高）
藤中　謙也（経営1・宇部商高）ジュニア男子アジア選手権（9月27日～10月5日＝イラン）

◇サッカー部
北爪　健吾（法2・前橋育英高）
長澤　和輝（経営3・八千代高）
下田　北斗（人間科学3・大清水高）
仲川　輝人（商2・日体荏原高）全日本大学選抜対ミャンマーA代表戦（9月26日＝大阪府堺市）